

事後調査の結果

調査項目（自然との触れ合い活動の場）

1. 調査事項

(1) 予測した事項

工事用車両の走行に伴う自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度

(2) 予測条件の状況

- ・工事用車両交通量（台数、種類、経路）
- ・一般車両交通量（台数、種類、経路）
- ・利用経路の状況

(3) 環境保全のための措置の実施状況

2. 調査地域

調査地域は、工事用車両の主な走行経路とした。

3. 調査手法

(1) 調査時点

自然との触れ合い活動の場の近傍（調査地点5）における工事用車両の走行台数が最大となる時点（平成30年度第3四半期）とした。

(2) 調査期間

ア. 予測した事項

「調査時点」を代表する1日とした。

イ. 予測条件の状況

「予測した事項」と同一時期とした。

なお、「別紙2 騒音・振動」において調査した工事用車両交通量及び一般車両交通量の結果を用い、利用経路の状況を表4-1に示す同一日に実施した。

表4-1 調査時期

| 調査時期 | 備考 |
|--------------------------|--------------|
| 平成30年11月27日（火）～11月28日（水） | ・現地確認（写真撮影等） |

ウ. 環境保全のための措置の実施状況

工事の施行中の適時とした。

(3) 調査地点

ア. 予測した事項

工事用車両の主な走行経路近傍に位置する 2 地点（図4-1、調査地点 1， 2）とした。

- ・調査地点 1：フェリーふ頭公園
- ・調査地点 2：暁ふ頭公園

イ. 予測条件の状況

工事用車両交通量及び一般車両交通量については、工事用車両の主な走行経路に位置する 3 地点（「別紙 2 騒音・振動：3. 調査手法 (3) 調査地点 2) 工事用車両の走行ア. 予測した事項」（p. 35 図2-2）、調査地点 3， 5， 6）とした。

利用経路の状況については、計画道路及びその周辺とした。

ウ. 環境保全のための措置の実施状況

計画道路及びその周辺とした。



図4-1 自然との触れ合い活動の場調査地点（工事の施行中）

(4)調査方法

ア. 予測した事項

「別紙2 騒音・振動」における調査結果、現地確認（写真撮影等）及び工事関係資料の整理、解析による方法とした（「別紙2 騒音・振動：3. 調査手法（4）調査方法 イ. 予測条件の状況 2）工事用車両の走行」（p.37））。

イ. 予測条件の状況

工事用車両交通量及び一般車両交通量は、「別紙2 騒音・振動」のうち工事用車両を含む道路交通量の調査結果の整理による方法とした（「別紙2 騒音・振動：3. 調査手法（4）調査方法 イ. 予測条件の状況 2）工事用車両の走行」（p.37））。

また、利用経路の状況は、現地確認（写真撮影等）及び工事関係資料の整理による方法とした。

ウ. 環境保全のための措置の実施状況

現地確認（写真撮影等）及び工事関係資料により整理を行った。

4. 調査結果

(1) 事後調査の結果の内容

ア. 予測した事項

現地確認結果は表4-2及び写真4-1に示すとおりである。

表4-2 現地確認結果

調査期間：平成30年11月27日（火）～平成30年11月28日

| 調査地点 | 調査時間帯 | 現地確認状況 |
|-------------------------|-------|---|
| 調査地点1 (フェリー ふ頭公園) | 朝 | 基本的には、物流関係の車両が多く駐車しており、工 用車両は見られなかった。早朝は利用者が多かったが、 10：00頃になると駐車場の利用台数が減少した。 |
| | 昼 | 乗用車が多く駐車しており、物流関係者以外の休息等 による利用が確認された。工用車両は見られなかった。 |
| | 夕 | 日中よりも乗用車の数が少なくなっていた。工用車両 は見られなかった。 |
| 調査地点2 (暁ふ頭公園) | 朝 | 釣りやランニングをしている人が見られた。利用人数は 3人程度であった。駐車場は満車であった（約20台程 度）。 |
| | 昼 | 釣りやサイクリングをする人が見られた。利用人数は6 人程度であった。駐車場は満車であった。 |
| | 夕 | 釣りやバーベキューをする人が見られた。利用人数は8 人程度であった。駐車場は満車であった。 |

注：調査時間帯は、以下の時間帯を中心とした。

- ・朝：8:00～9:00
- ・昼：12:00～13:00
- ・夕：16:00～17:00



調査地点1（フェリーふ頭公園）（朝）



調査地点1（フェリーふ頭公園）（昼）



調査地点1（フェリーふ頭公園）（夕）

写真4-1(1) 調査地点1（フェリーふ頭公園）確認結果



調査地点2（暁ふ頭公園）（朝）



調査地点2（暁ふ頭公園）（昼）



調査地点2（暁ふ頭公園）（夕）

写真4-1(2) 調査地点2（暁ふ頭公園）確認結果

イ. 予測条件の状況

工事用車両交通量及び一般車両交通量の結果は、表4-3及び表4-4に示すとおりである。南北線の工事用車両は、調査地点3のみ評価書時点よりも多くなっており、一般車両及び工事用車両の合計の交通量でも、調査地点3のみ評価書時点よりも多くなった。工事用車両のうち、南北線の事業の占める割合は、南北線工事現場に最も近い調査地点5では2割程度、その他の調査地点3、6では1割以下であった。

表4-3 調査地点における交通量及び走行速度

調査期間：平成30年11月27日(火)～平成30年11月28日(水)

| 調査地点 | 時間区分 | 交通量 (台/日) | | | | 走行速度 (km/h) | |
|----------------------------|------------|-----------|--------|-------|-------|-------------|--------|
| | | 一般車両 | | 工事用車両 | | | 合計 |
| | | 小型車 | 大型車 | 南北線 | その他 | | |
| 調査地点3〔臨港道路〕 (大田区城南島3丁目) | 昼間 (台/16h) | 17,824 | 24,726 | 268 | 4,368 | 56.0 | |
| | 夜間 (台/8h) | 3,166 | 4,349 | 92 | 657 | | |
| | 24時間計 | 50,065 | | 360 | 5,025 | | 55,450 |
| 調査地点5〔臨港道路〕 (江東区有明3丁目) | 昼間 (台/16h) | 10,577 | 8,051 | 166 | 811 | 47.7 | |
| | 夜間 (台/8h) | 1,096 | 1,243 | 84 | 43 | | |
| | 24時間計 | 20,967 | | 250 | 854 | | 22,071 |
| 調査地点6〔臨港道路〕 (江東区若洲3丁目) | 昼間 (台/16h) | 11,562 | 12,017 | 102 | 931 | 50.4 | |
| | 夜間 (台/8h) | 2,072 | 2,870 | 8 | 274 | | |
| | 24時間計 | 28,521 | | 110 | 1,205 | | 29,836 |

- 注：1. 交通量は、環境基準の時間帯（昼間：6時～22時、夜間：22時～6時）に対応する時間交通量を示す。
 2. 工事用車両のその他の交通量は、事後調査時に計測した南北線の工事以外のダンプトラック、コンクリートミキサー車の台数を示す。
 3. 走行速度は、事後調査時の実測値（1日、上下平均値）を示す。

表4-4 予測地点における将来交通量及び走行速度（評価書時点）

| 予測地点 | 時間区分 | 交通量 (台/日) | | | | 走行速度 (km/h) |
|----------------------------|------------|-----------|--------|--------------|--------|-------------|
| | | 一般車両 | | 南北線 工事用車両 | 合計 | |
| | | 小型車 | 大型車 | 大型車 | | |
| 予測地点3〔臨港道路〕 (大田区城南島3丁目) | 昼間 (台/16h) | 16,078 | 27,126 | 314(0) | 43,518 | 50 |
| | 夜間 (台/8h) | 2,756 | 5,170 | 2(0) | 7,928 | |
| | 24時間計 | 51,130 | | 316(0) | 51,446 | |
| 予測地点5〔臨港道路〕 (江東区有明3丁目) | 昼間 (台/16h) | 12,062 | 10,695 | 292(0) | 23,049 | 50 |
| | 夜間 (台/8h) | 1,332 | 1,935 | 0 | 3,267 | |
| | 24時間計 | 26,024 | | 292(0) | 26,316 | |
| 予測地点6〔臨港道路〕 (江東区若洲3丁目) | 昼間 (台/16h) | 12,608 | 13,513 | 134(0) | 26,255 | 60 |
| | 夜間 (台/8h) | 2,366 | 3,627 | 0 | 5,993 | |
| | 24時間計 | 32,114 | | 134(0) | 32,248 | |

- 注：1. 交通量は、環境基準の時間帯（昼間：6時～22時、夜間：22時～6時）に対応する時間交通量を示す。
 2. 工事用車両は、南北線の建設工事に係る台数を示し、()はY3事業に伴う工事用車両台数を示す。
 3. 一般車両の大型車の交通量は、南北線の工事以外のダンプトラック、コンクリートミキサー車の台数を含む。
 4. 走行速度は、予測条件として用いた規制速度を示す。

り。環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表4-5に示すとおりである。

なお、自然との触れ合い活動の場に関する苦情はなかった。

表4-5 環境保全のための措置の実施状況

| 環境保全のための措置 | 実施状況 |
|---|---|
| 工事の施行に伴う交通渋滞を緩和するため、工事施行箇所及び工事量の集中を避ける工事工程を計画する。 | 工事の施行に伴う交通渋滞を緩和するため、臨港道路南北線安全連絡協議会や中防地区工事連絡協議会等を通じた交通調整や推奨ルートの提示を行うとともに、工程の平準化を行い工事用車両台数の一時的な増加の抑制に努めた。 |
| 工事用車両台数を低減するため、工事関係者の通勤車両を極力乗り合いとする。 | 工事用車両台数を低減するため、工事関係者の通勤車両を極力乗り合いとした。 |
| 工事用車両については、東京港臨海道路の利用を促進し、できるだけ居住区域を通行しないよう指導する。 | 工事用車両については、臨港道路南北線安全連絡協議会や中防地区工事連絡協議会等を通じた交通調整や推奨ルートの提示を行い、できるだけ居住区域を通行しないよう指導した。 |
| 定期的に協議会や安全教育等を開催し、公園等を利用する人々の安全確保の徹底に加え、工事用車両の走行等がその利用に影響を及ぼすことがないよう、上記の環境保全措置の実施を工事関係者へ周知徹底する。 | 定期的に臨港道路南北線安全連絡協議会や安全教育等を開催し、公園等を利用する人々の安全確保の徹底に加え、工事用車両の走行等がその利用に影響を及ぼすことがないよう、上記の環境保全措置の実施を工事関係者へ周知徹底した。ふ頭内を工事用車両が走行する際は、速度制限（15km/h以下）を遵守するよう、工事関係者へ周知した。また、敷地境界にバリケードを設置し安全確保するとともに、案内看板、工事看板等により埠頭等の利用者へ影響がないよう周知した。 |

(2) 予測結果と事後調査の結果との比較検討

評価書では、工事の施行中における自然との触れ合い活動の場までの主な利用経路について、工事用車両の主要な走行経路となることから、工事の施行に伴い交通量の増加が見込まれるとされている。

その上で、フェリーふ頭公園には駐車場がないため車両での来場は想定されていないこと、利用者への聞き取り調査結果より、平日利用者の多くが近傍の会社や倉庫等から徒歩で訪れていることから、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響はないものとされている。一方、暁ふ頭公園には駐車場があり、近傍の会社からの徒歩のほか各方面から青海縦貫線を経由した車両での来場がみられるが、車両での来場は休日利用者が中心であること、利用者に占める休日利用者の割合が多いこと、青海縦貫線を経由する工事用車両の台数は現状の交通量に対してわずかであることから、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響はほとんどないものとされている。

事後調査結果では、評価書時点は公園として利用されていたフェリーふ頭公園が休園し、駐車場として活用されていた。そのため、フェリーふ頭公園の主な利用目的は、評価書時点では、休息、通り抜け、散歩、遊戯・スポーツ、自然観察等であったが、事後調査時点では、休息や昼食をとる間の駐車となっていた。利用者については、評価書時点では近傍の会社からの徒歩による利用や各方面からの車による利用であったのに対し、事後調査時点では、主に港湾労働者であった。主な利用時間については、評価書時点は昼間の時間帯（9：00～13：00）であり、事後調査時点も昼時であった（12：00前後）。

一方、暁ふ頭公園の主な利用目的は、評価書時点と同様、休息、釣り、サイクリング、バーベキュー等であった。主な利用時間は、事後調査時点は夕方（16：00前後）の時間帯であり、評価書時点の12：00～13：00程度と異なったが、駐車場は常に乗用車で満車となっており、利用率も高い状況であった。

利用経路に影響を及ぼす可能性のある道路交通量について、自然との触れ合い活動の場の近傍の1地点（調査地点5）の交通量は、南北線の工事用車両及び一般車両ともに評価書時点に比べて少なくなっていた。周辺の2地点（調査地点3、6）のうち、調査地点3については評価書時点を上回る交通量が確認されたものの、自然との触れ合い活動の場からは離れていること、工事用車両のうち、南北線事業の占める割合は1割以下と少ないこと、現地確認において工事用車両の路上駐車等による渋滞などは確認されていないことから、公園の休園など利用状況に変化はあるものの、評価書時の予測結果と同様に、南北線事業に関する工事用車両の走行が自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響はほとんどなかったものと考えられる。